

# 漁業地域再生プロジェクト トピックス



## キックオフシンポジウムを開催しました



「漁業地域再生プロジェクト」キックオフシンポジウムが9月27日、品川キャンパスで開催され、およそ160名の方が参加されました。

講演の部では、私から**漁業地域再生のシナリオづくり**を進めていく考えを説明し、池田 URA からは本学の**産学・地域連携の取組**を紹介しました。また、水産庁の岡漁港漁場整備部長より、活性化の取組の紹介とともに、**プロジェクトに対する強い期待**が示されました。最後に、渡辺（公社）全国農地保有合理化協会会長より**グローバルの時代が到来**しているとの講演がありました。



## 韓国・釜山の港湾・魚市場を調査してきました

9月上旬に、韓国における水産物輸出事情を把握するため、韓国海洋開発研究院の訪問と釜山港魚市場並びに済州島の調査を行いました。

**釜山共同魚市場**は、国内で水揚げされる水産物の約3割が卸売される**国内最大の魚市場**です。開場してから半世紀を経ており、数年前から近代化に取り組んでいます。しかし、具体的に**衛生管理的な近代的施設整備はこれから**のようです。

**済州島**は、養殖ヒラメ、アワビ、サザエなど活魚・活貝の主要産地です。半分は海外へ輸出されています。**日本向けは、活魚車が内航フェリーに乗船して釜山へ行き、その後は、外航フェリーで下関港や博多港へ向かいます。**これは、日本が韓国へ活魚・生鮮ものを輸出する場合と同様に**近接航路を活用**しています。米国向けは、済州島の空港から仁川国際空港で積み替えられ輸出されます。ただ、ヒラメについては、寄生虫の問題で**日本への輸入規制**があり、それまで日本へ輸出していた分は米国へ輸出されています。

討論の部では、各討論者から提供された話題をベースにしなが**ら、起業として地域にどのようなシーズがあるか、シーズをどのように育てていくか、**会場の参加者からのご意見も交えながら活発な議論が行われました。

最後、漁業地域再生の可能性について、私が「**具体的なテーマを設けシンポジウム等を重ねながら進めていきたい**」旨の表明を行い終了しました。ご参加いただき、ありがとうございました。



8月より、（一社）水産土木建設技術センターとの共同研究を始めました！

“**漁港漁場の管理運営機能向上におけるICT活用の事例分析**”をテーマに国内外事例の比較から分析します。

### 【漁業地域再生プロジェクト担当 問合せ先】

中泉 昌光（特任教授）  
品川キャンパス 1号館 213号  
Tel：03-5463-0793  
e-mail：nakaiO@kaiyodai.ac.jp